

漢方養生サプリメント養生片仔廣 (YHK) に初期の実験誘発肝腫瘍性病変に対する抑制効果あり

^{1,4}マロタ F、²原田 M、³ゴー KL、¹ロレンゼッティ A、¹ゲロサ F、⁴ミネリ E

¹S. ジュゼッペ病院肝消化器病科 (イタリア、ミラノ) ; ²MCH 病院 (日本、東京都) ; ³マラヤ大学胃腸病学・肝臓病学講座 (マレーシア、クアラルンプール) ; ⁴ミラノ大学バイオテクノロジー・伝統医学 WHO センター (イタリア)

キーワード：肝前癌病変、GST-P (陽性) 細胞巣、養生片仔廣 (YHK)

演者の住所：F. Marotta, MD, PhD

Piazza Firenze, 12

20154 Milano, Italy

e-メール：fmarchimede@libero.it

生体異物は癌形成に深く関与している。たとえば、臨床試験によれば、ヒトの 1 日当たり食品由来発癌性物質 MeIQx 摂取量は約 0.2– 2.6 $\mu\text{g}/\text{subject}$ であることが判明している。こうした潜在的発癌性物質に対しては、検出・除去に加え、保護的効果のある食養生療法的アプローチが理想的な対症療法と言えるだろう。実際、臨床試験においては、多くの薬草療法とは異なり、我々が最近研究を行った漢方養生サプリメント、養生片仔廣 (YHK：田七、杜仲、黄精、甘草、高麗人參。(株)協通事業、日本国、東京都) は、HCV 感染に伴う慢性肝疾患患者の ALT 値および脂肪壊死を有意かつ急速に低下させることが判明している。本研究の目的は、スプラッグ・ドーリー・ラットのジエチルニトロソアミン(DEN)誘発肝癌形成に対する薬草療法剤 YHK の効果を調査することにあつた。ラットは無作為に 3 群に分け、15 週間追跡調査した。1 群には標準食を与え、健康な対照群とした。2 群および 3 群(ラット数は各群とも 20 匹)には、DEN の手法を用いて肝前癌細胞巣を誘発した。しかしながら、3 群には同時に YHK を 1 日当たり 50mg/kg 投与した。肝前癌細胞巣の定量評価のために、免疫組織化学的染色方法および画像解析を用いてグルタチオン-S-トランスフェラーゼ P 型(GST-P)陽性細胞巣を測定した。DEN 投与により、有意の体重減少と肝重量の増加が認められたが、YHK はこうした現象を抑制する効果があつた。DEN のみを投与した群と比べると、YHK 同時投与群の GST-P-陽性細胞巣は、数、大きさ、容積が有意に減少した。さらに、YHK を同時投与することによって、肝細胞癌の発生率、数、大きさ、容積は有意に減少した。YHK の保護的抗腫瘍効果を説明するためには、YHK の抗酸化作用だけではなく、抗炎症性、抗繊維化作用といったメカニズムが手掛かりとなるだろう。こうしたことから、漢方養生サプリメント YHK はラットの DEN 誘発肝前癌病変における肝癌形成を抑制することにより、機能性食品としてさらに臨床応用が可能な潜在性を有しているとの結論に達した。